

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年3月22日現在

機関番号：17201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22652027

研究課題名（和文）

創作された戦場～アメリカ文学の中のヴェトナム戦争

研究課題名（英文）

Fictionalized Battlefields: The Vietnam War in American Literature

研究代表者 高野 吾朗 (GORO TAKANO)

佐賀大学・医学部・准教授

研究者番号：60404167

研究成果の概要（和文）：

三年間の研究期間のうち、初年度においてはまず、ヴェトナム戦争に絡んだアメリカ文学の諸作品（長編小説・短編集・詩・戯曲）ならびに映画作品の数々の読破・鑑賞に時間をもつばら費やした。二年目においては、膨大な小説作品群の中から厳選した重要作品群に特にスポットを当てつつ、その中で描かれている「女性」像のありようにとりわけ着目し、戦争とジェンダーの関係をめぐる包括的論文を一つ発表した。一方、最終年度の三年目においては、ヴェトナム戦争に絡む詩人たちの活動へと焦点を新たに移し変え、戦争と日常を切り結ぶ詩学の重要性を提唱する包括的論文を一つ発表した。

研究成果の概要（英文）：

I spent the first year of this 3-year research reading closely as many important Vietnam-War-related works in US (novels, short stories, poetry, plays) as I could as well as watching analytically as many Vietnam-War-related films as possible. In the second year, I focused mainly on selected American novels and short stories on the Vietnam War with a strong thematic concern for the ways women are depicted in those works, and published a comprehensive paper on the intricate relations between the very war and gender. In the third year, I shifted my academic focus onto the works of some important contemporary American poets on the Vietnam War, and published a comprehensive paper where the significance of the poetics that attempt to connect battlefields to everyday lives is particularly stressed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	0	900,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	210,000	1,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学、ヴェトナム戦争、戦争文学

1. 研究開始当初の背景

研究開始当時、「ヴェトナム戦争文学」という文学ジャンルは、アメリカ国内においてさえ、まだ完全には確立されていないように思われた。聖典化されたテキストもそれほど多くなく、理論的な研究書もおおむね感じられなかった。一方、ヴェトナム戦争時ほど、20世紀のアメリカが「愛国心」「トラウマ」「他者の痛み」「戦争行為に潜む人種意識・性意識・階級意識」等の何たるかを深く内省した時代はなく、かの時代の文学観をあらためて再認識することは、とりわけ2001年9月11日以降の現代アメリカのありようを考えるにあたって、大きな現代的意義を今なお有しているようにも思われた。

2005年11月にハワイ大学英文学部で開催されたシンポジウム「あれから三十年～ヴェトナム戦争についての文学・映画に関する会議」に触発されて以来、私はこのテーマをずっと密かに暖め続けてきていたが、読書量の足りなさや自らの切り口の曖昧さのせいで、なかなか足を踏み込めないままだった。しかし、何とか思い切って研究を開始してみようと思い、挑戦的萌芽研究を選択した、という次第であった。

2. 研究の目的

「ヴェトナム戦争(1960-1975)はアメリカの作家たちによっていかに文学化されてきたのか」・・・この遠大な問いかけを、小説・演劇・詩・ノンフィクションなどの様々なテキスト分析を重ねながらできる限り広く深く明らかにしていく、というのが、この研究の元々の主目的であった。

3. 研究の方法

研究一年目は特定のジャンルにこだわることなく、ヴェトナム戦争関連の文学・映像作品群を片っ端から分析的に読破・鑑賞していった。

当時の主な研究対象は、例えば以下のような文学作品群であった：James Park Sloan, *War Games* (フィクション：1971)；Frances Fitzgerald, *Fire in the Lake* (ノン

フィクション：1972)；Tim O'Brien, *If I Die in a Combat Zone: Box Me Up and Ship Me Home* (ノンフィクション：1973)；Robert Stone, *Dog Soldiers* (フィクション：1974)；David Rabe, *Vietnam Plays* ["The Basic Training of Pavlo Hummel" (演劇：1973), "Sticks and Bones" (演劇：1973), "Streamers" (演劇：1977)]；John Balaban, *After Our War* (詩集：1974)；Charles Durden, *No Bugles, No Drums* (フィクション：1976)；Gloria Emerson, *Winners and Losers* (ノンフィクション：1976)；C. D. B. Bryan, *Friendly Fire* (ノンフィクション：1976)；Ron Kovic, *Born on the Fourth of July* (ノンフィクション：1976)；Michael Herr, *Dispatches* (ノンフィクション：1977)；Philip Caputo, *A Rumor of War* (ノンフィクション：1977)；Larry Heinemann, *Close Quarters* (フィクション：1977)；Tim O'Brien, *Going After Cacciato* (フィクション：1978)；Winston Groom, *Better Times Than These* (フィクション：1978)；James Webb, *Fields of Fire* (フィクション：1978)；Gustav Hasford, *The Short-Timers* (フィクション：1979)；Bruce Weigl, *A Romance* (詩集：1979)；Bobbie Ann Mason, *In Country* (フィクション：1985)；Larry Heinemann, *Paco's Story* (フィクション：1986)；Tim O'Brien, *The Things They Carried* (フィクション：1990)；Robert Olen Butler, *A Good Scent from a Strange Mountain* (フィクション：1993)。これらに加え、研究一年目は、ヴェトナム戦争文学に関する数々の研究書(アメリカ国内で出版されたもの)の読破にも努め続けた。

上記の数多き作品群の中から、研究二年目は代表的小説群(特にTim O'Brienの主要作品群)へと焦点をさらに絞って、学会発表・論稿制作を行った。また三年目は、代表的詩集群(特にBruce Weiglの主要作品群)へと焦点を移し変え、新たに学会発表・論稿制作を行った。

4. 研究成果

研究二年目においては、ヴェトナム戦争に関する米国作家たちの小説作品群にしばしば見受けられる“残酷な女性蔑視の描

写”にとりわけ着目してみることにした。この戦争文学ジャンルにおいては、従軍兵士たる米国人男性キャラクターが、自らの戦場において（敵たる北ヴェトナム側なのか、あるいは味方たる南ヴェトナム側なのか、もはやすぐには識別しづらい）ヴェトナム人女性キャラクターと出会ってしまう、という場面が伝統的に頻出しがちである。その際、この不幸な遭遇が作品中において陰惨なレイプ描写や暴行描写へと一直線にエスカレートしていくという可能性は、今なおかなり高いように思われる。ヴェトナム人女性をほぼ“売春婦”扱いするかのごとき視線（および英語表現）が、米兵たる男性キャラクターたちの間でごく当たり前に横行しがちである点も、いまだに大きく注目されて然るべき問題であろう。戦争終結から三十年以上が経過した現在、すでに多くのアメリカの識者たちが、こうした無軌道きわまりない性差別的描写の数々のそのすぐ裏側に、米国文化そのもの（あるいは、“米軍”という特殊システム）に長きにわたって根深くはびこる“男尊女卑的志向”“マッシュョイズム”“人種差別主義”の影を鋭く嗅ぎ取っているのである。

この研究で私が重点的に考えてみたのは、上記の問題と見事に対をなしていると思われるもう一つの重要な問い、すなわち、「アメリカの主要なヴェトナム戦争文学作品群における米軍男性兵士キャラクターたちは、“自国のアメリカ人女性たち”をいったいどのように見がちなのであろうか」という問題であった。この問題を考える上でのキーワードは、“女性の軍事化”というフレーズであった。米国の主要なヴェトナム戦争小説群のいくつかをあらためて細かく読んでいくと、元従軍兵の男性主人公が、自分の心の傷をともに分かち合おうとわざわざ近づいてきてくれた自国の女性たちに対して、そんな女性を長らく求めていたにもかかわらず、結局なぜか距離を置こうとする、どこかねじれた構図が垣間見えてくる。その裏側に、「われら従軍兵の心を深く理解する女性」＝「軍事化しつつある女性」に対する男性兵士ならではの“奇妙な拒否感”が暗示されていないだろうか・・・Tim O'Brienの連作短編集 *The Things They Carried*、Bobbie Ann Masonの長編小説 *In Country*、Larry Heinemannの全米図書賞受賞作 *Paco's Story* 等、このジャンルのいくつかの名作に言及しながら、このジェンダー問題をさらに掘り下げてみたのが、研究二年目の主な成果であった。

三年目の研究において私がとりわけ注目したのは、アメリカの詩人 Bruce Weigl (1949年～) である。日本では未訳のままのこの詩人の名は、アメリカの“ヴェト

ナム戦争文学”というジャンルを考える際、今なおとりわけ際立っているように思われる。Weiglは1967年から68年にかけてヴェトナムに従軍した体験を持っている詩人である。“年間最優秀詩人”に贈られるアメリカの Pushcart 賞をこれまで二度も受賞している彼のキャリアは非常に長く、“ヴェトナム戦争詩人”の代表格として、今なお特筆されることの多い業績を誇っている。

ヴェトナム戦争終結の日から今日に至る三十年以上の年月の中で、詩人 Weigl はいったいどのように自らの戦争体験（および、母国アメリカの変わりゆく姿）を自らの詩作の中に込めてきたのか。彼の独特の歌い方には、戦争そのものの善悪の議論をはるかに超えるかのごとき雰囲気が常に広がっており、それゆえにこそ彼の詩集は、今なお多くの米国読者の心を強く捉え続けているように思われる。そんな彼の詩学の根幹には、ヴェトナムでの戦場体験と当時の（あるいは、戦後から現在に至る）アメリカ国内の日常との間に何がしかの“隠れた接点”を見出そうとする、独自の思索行為すら見受けられる。Weiglの詩学をとおして見えてくる独特の戦争詩のありようを、彼の実際の代表作品群のいくつか（および、彼以外の様々な“ヴェトナム戦争詩人”たちの代表作品群）を精読・比較分析しつつ、詳細に追及していったのが、研究三年目の主な成果であった。

上記のどちらの研究も、所属学会においては非常に好意的に受け止められた。日本におけるヴェトナム戦争文学研究をさらにもう一步進める内容になったものと、自負している。今後は、「ヴェトナムから難民としてアメリカに逃れてきた人々の手によるヴェトナム戦争文学」研究へとさらに足を伸ばしてみることにしており、その論稿が完結した暁には、できればこれまでの研究内容を一冊の本の形に纏め上げたいと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① 高野吾朗「戦場と日常を結ぶ接点を映し続けて～“ヴェトナム戦争詩人” Bruce Weigl を考察する」、『比較文化研究』第104号、査読有、2013年2月、261-285
- ② 高野吾朗「男性兵士のそばで“軍事化”する女たち～米国のヴェトナム戦争文学作品を再読する」、『比較文化研究』第101

号、査読有, 2012年3月、29-48

〔学会発表〕(計2件)

- ① 高野吾朗「戦場と日常の“隠れた接点”を映し続けて～『ヴェトナム戦争』詩人 Bruce Weigl に関する一考察」、日本比較文化学会・全国大会、2012年6月9日、岡山市立中央公民館にて
- ② 高野吾朗「男性兵士のそばで“軍事化”する女たち～米国のヴェトナム戦争文学作品を再読する」、日本比較文化学会・全国大会、2011年10月1日、弘前学院大学にて

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高野 吾朗 (GORO TAKANO)
佐賀大学・医学部・准教授
研究者番号：60404167

(2) 研究分担者 なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし ()

研究者番号：